

第2期川崎市ウェルフェアイノベーション推進計画（案）用語解説（五十音順）

● IoT (p10)

様々な「モノ(物)」がインターネットに接続され(単に繋がるだけではなく、モノがインターネットのように繋がる)、情報交換することにより相互に制御する仕組みのこと。

● ウェルフェアイノベーション (p2)

産業と福祉の融合により、新たな活力と社会的価値の創造を目的とした本市の取組。

● オープンイノベーション (p10)

自社だけでなく他社や大学、地方自治体、社会起業家などが持つ技術やアイデア、サービスなどを組み合わせ、革新的な事業手法や革新的な研究成果、製品開発、サービス開発につなげる方法論のこと。

● オープンデータ (p26)

行政が保有する公的な情報を、誰もが自由に使い、再利用や配布が可能なデータとして提供すること。

● グリーンイノベーション (p2)

環境技術・環境産業の創出と振興により地域経済を活性化等、地球規模での環境問題やエネルギー問題等に対応し、持続可能な社会を実現することを目的とした本市の取組。

● 産業と福祉のハブ機能 (p3)

本市がこれまで強化してきた、産業側のシーズ（技術・ノウハウ）と福祉側でのニーズ（求め）が本市に集積し、相互に行き交い、新たな活力と社会的価値を生み出す機能のこと。

● 人工知能 (AI) (p10)

人工的にコンピュータ上などで人間と同様の知能を実現させようという試み、或いはそのための一連の基礎技術のこと。

● ダイバーシティ (p13)

市場の要求の多様化に応じ、企業側も人種、性別、年齢、信仰などにこだわらずに多様な人材を生かし、最大限の能力を発揮させようという考え方のこと。

● 地域包括ケアシステム (p2)

高齢者をはじめ誰もが、住み慣れた地域や自らが望む場で暮らし続けることができるよう、地域において「介護・リハビリテーション」「医療・看護」「保健・予防」「福祉・生活支援」などの必要なサービスが必要な方に提供されるための仕組みのこと。

● パラメータ (p2)

障害のある人が生き生きと暮らす上での障壁となっている私たちの意識や、社会環境のバリアを取り除き、新しい技術でこれらの課題に立ち向かうことを「ムーブメント(運動)」としてさまざまな分野で展開していくこと。

● ビッグデータ (p10)

ICT(情報通信技術)の進展により、生成・収集・蓄積等が可能・容易になる多種多量なデータのこと。

● ヘルスケア (p11)

健康の維持や増進のための行為や健康管理のこと。

● プロトタイピング (p27)

実動する試作機(プロトタイプ)を早期に製作する手法およびその過程のこと。

● ユーザビリティテスト (p27)

ある製品を評価するために実際に製品利用を想定する方にその製品を試してもらう手法のこと。

● ユニバーサルデザイン (p36)

年齢や障害の有無にかかわらず、全ての人が使いやすいように工夫された用具、建物などのデザインのこと。

● ライフイノベーション (p2)

革新的医薬品・医療機器の開発・製造と健康関連産業の創出など、医療・健康分野における研究開発から新産業を創出する本市の取組。